お別れに当たり、校訓である「はばたけ　たくましく」のように、さらにたくましく羽ばたいていただくようはなむけの言葉を二つ贈ります。

一つ目は「悩む力」をつけてほしいということです。姜尚中（かんさんじゅん）さんの「悩む力」「続・悩む力」の二冊の本に書かれていることからお話しします。これらの本には、夏目漱石とマックス・ウェーバーという二人の書いた書物や生き方についてのことが書かれています。

夏目漱石は「吾輩は猫である」「ぼっちゃん」等を書いた明治の文豪として有名です。マックス・ウェーバーはドイツの社会科学者として世界的に知られた人でした。二人はほぼ同じ時代、今から約百年余り前に生き、出会うことはありませんでした。しかし、二人には共通点がありました。それは、二人とも歴史に名を残す活躍をした人ですが、それぞれが順調な生活というのではなく、様々な挫折を感じ、悩み、悩みの中から自分の生き方を突き進んだ人なのです。彼らは、文明が進み、ものが豊かになる中で、本当の豊かさとは何か、心の豊かさや生きる意味等について真正面から向き合い、悩みました。

漱石は、若い頃、英語研究のため国の留学生としてイギリスに行っていましたが、文化や技術の進んでいるイギリスでも様々なことに悩み精神的に参ってしまったこともありました。また、日本に帰ってから学校の先生や作家として活躍しましたが、多くの悩みを持ち、作品にもその影響があると言われています。

彼は、晩年「則天去私（そくてんきょし）」という言葉をよく使いました。則天去私（そくてんきょし）とは、自分の欲望などを捨て去り、自然のまま運命に逆らわないで生きるということです。漱石は真剣に悩んで、悩んで、それを乗り越えた先にこのような境地に至ったのだと思います。

これから先、様々な困難やどうしたらよいか分からなくなることが起こるかもしれません。きっと悩むこともあるでしょう。あなたたちのような若い人には悩みの中から、それ乗り越え、突き進む力をつけてほしいと考えます。悩む力をつけて下さい。

二つ目は「一隅を照らす」人になって欲しいということです。「一隅を照らす」という言葉は、比叡山延暦寺を開いた最澄の著書「山家学生式（さんげがくしょうしき）」にある言葉です。そこには、「径寸十枚（けいすん）これ国宝にあらず、一隅を照らすこれ則ち国宝なり。」とあります。径寸とは金銀財宝のことで、一隅とは自分のいるところという意味です。お金や財宝は国の宝ではなく、自分自身がおかれたその場所で精一杯努力し、明るく輝くことのできる人こそ、何物にも代え難い尊い国の宝であるということです。

人は誰でも何らかの使命を果たすためにこの世に生まれているといいます。あなたが生まれたということは、あなたの命がエネルギーとして輝き、あなたの周りを優しく照らしているのです。どうか、自分自身を大切にして精一杯美しく光を発する生き方をして欲しいと思います。一人一人の美しい光が、どんどん数を増やし、世の中を明るく照らします。自分がどんな場所、どんな立場にいても必要な光を自分で発する人になって欲しいのです。一隅を照らす人となって下さい。

私たちは、一昨年の東日本大震災とそれに伴う原子力発電所の事故でおののき、科学が決して万能ではないと言うことを知りました。また、人は人とつながること、絆が大切なことを改めて確認しました。

一度限りの人生、皆さんはどのように生きていきますか。どうか自分の人生と真剣に向き合い、考え、悩みを乗り越えること、生きている今を大切にしてしっかりと輝く人生を送って下さい。「悩む力」「一隅を照らす人」という言葉をはなむけとして贈ります。

平成２５年３月

お別れに当たり、校訓である「はばたけ　たくましく」のように、さらにたくましく羽ばたくためのはなむけの言葉を贈ります。「三つのカンを持とう。」「前向きに生きよう。」ということです。三つのカンとは、「関心」「感性」「感謝」です。

物事に対して関心を持ちましょう。皆さんは、今年赤ちゃんとの交流会を経験しました。赤ちゃんを抱っこしたり一緒に遊んだりしてその成長のすごさを感じたことと思います。体がぐんと大きくなった。はいはいをした。意味はわからないけど話をした。笑ったり泣いたりするなど表情が豊かになったのがわかったと思います。赤ちゃんは,関心や興味の固まりです。この関心こそが成長のもとです。皆さんも、成長しています。物事への関心を持ち、できるようになったこと、考えたことをどんどん増やしてください。

次は、感性です。関心を持って取り組んでも受け取る心や構えで成長具合も変わります。そのために感性が必要となります。感性は感覚（センス）とか感受性ともいうこともあります。心で感じる度合いを強めることです。「感性を磨く」といったりもします。例えば、演奏を聴いて「良い・悪い」などを直感的にわかるための経験、演奏をより深く味わうための音楽の知識や背景の理解も大切です。しかし、どんなに知識や経験があっても、美しいものを感じとる「心」が鈍くては、感性豊かとは言えません。感性を磨くために美しい景色を見たり、音楽を聴いたり、読書をしたり、映画や劇を観賞する等して感性を豊かにしてください。

三つ目は、「感謝の気持ちを持とう。」ということです。「感謝に敵なし、反省に終わりなし」という言葉があります。皆さんが、今日を迎えるまでに、多くの方々がいろいろな面で皆さんを見つめ、励まし、ご指導下さいました。周りの人がいろいろやって下さることは当然のこととして受け取りがちです。感謝の気持ちを忘れず、素直に態度に表すことが大切なのです。感謝の気持ちを持ち、いろいろなことに取り組むことでさらに成長ができます。関心、感性、感謝の三つの「カン」を大切にしてください。

次に、「前向きに生きよう。」ということです。「朝の来ない夜はない」。宮本武蔵や新平家物語を書いた吉川英治という作家が、母親からよく言い聞かされてきた言葉だそうです。夜明け前の一番暗い時を過ぎれば朝です。どんなに苦しい時でも、希望を失わなければ、努力をすれば道は開けるということです。常に前向きに考えることで、人間としての大きな成長があるのです。

今この国は、大変難しい状況にあります。昨年三月十一日の東日本大震災。あれから一年、まだまだ復興は途中です。私も、先月被災地に行く機会があり、津波で流された建物を片付けたがれきの山、電気や水道などが入らず、計画も立てられない状況の中で整地されている土地を目の当たりにして,これからだという気持ちになりました。

しかし、歴史を振り返ると、自然災害に対して、明治維新、第二次世界大戦後の復興など様々な試練をこの国の人々は乗り越えてきたのです。そのためにも、皆さんのような若い力が必要とされています。どんな時でも「朝の来ない夜はない」ということを信じて目標と希望を持っていつも前向きに生きてください。一日一日を大切に過ごしてください。

平成２４年３月

はじめに、三月十一日に発生した東北関東大地震および津波などにより亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様、そのご家族の方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。
一日も早い復旧･復興をお祈り申し上げます。　本校でも、「自分達に何かできることはないか、力になろう」と卒業生が中心となって行っている募金活動、卒業後は五年生が来週いっぱい引き継ぎます。集まりました募金は、市の社会福祉協議会を通じて被災地に届けたいと考えています。みなさんの善意に感謝いたします。ありがとうございます。

門出にあたり、皆さんに大切にしてほしい「い」のつく言葉を三つ贈ります。
まず、命の「い」です。たった一つしかないかけがえのない自分の命、たった一人しかいない自分、たった一度しかない自分の人生。自分を真に輝かせることができるのは、世界中に自分一人しかいません。生きていると悲しいことや苦しいこともあると思います。しかし、生きていれば家族や友達や先生方との楽しいことがたくさん味わえます。自分の夢や希望を叶えることができます。人の役に立つことができるのです。生きることのすばらしさ、生きていることの喜びをしっかり味わい、自分らしくたくましく生き抜いてほしいのです。
二つ目は意志の「い」です。意志とは、物事を成し遂げようとする心の働きです。人間は誰でも、よりよくなりたい、自分の可能性を試したい、自分の能力を最大限に伸ばしたいという願いを持っています。これらの願いを実現させるためには、自ら目標を立て、強い意志を持って自ら考え努力することが大切です。とにかくできることから実践することです。大きな夢を持ち、その夢の実現に向かい、強い意志で日々精進して下さい。
三つ目は今の「い」です。過ぎ去ったことにくよくよしたり、これからのことを心配していても不安になるばかりです。大切なのは、今、このときです。今、このときを真剣に一生懸命生きること、今できることを精一杯明るい気持ちで行うことが大切です。「今」というこのときは、もう二度と帰ってきません。どうか、一日一日を大切に、自分を磨いていってほしいと願います。
三つの「い」、「命」「意志」「今」を大切に、笑顔で希望を持って、広い世界に、羽ばたいて下さい。「はばたけ　たくましく」

平成２３年３月

門出にあたり、はなむけの言葉を二つ送ります。

一つ目は、相田みつをさんの詩です。相田さんは、「にんげんだもの」「いのちいっぱい」等を世に出し、知っている人も多いと思います。

相田さんは中学校を卒業後地元で就職、その後、仕事上のトラブルによる人間不信、失業、四年間の療養生活、人生に大きな影響を持つ二人の人物、人生の師・先生となる禅寺の住職さん、妻千絵さんとの出会い、二十代後半で大学の夜間部への入学と自分磨き、書家としてのスタート等様々な経験や出逢いを重ねました。

相田みつをさんが人間本来の有り様を書と詩でまとめた「生きていてよかった」の中から「出逢い」という詩を取り上げます。

「そのときの出逢いが　その人の人生を
根底から変えることがある
出逢いが　人間を感動させ
感動が人間を動かす
人間を動かすものは
むずかしい理論や　理屈じゃない
人間を根底から変えてゆくもの
人間を本当に動かしていくもの
それは人と人との出逢い
そのときの出逢いーー」

皆さんは上北条小学校を卒業し進学します。一つの別れであるとともに新しい出逢いの時です。人は様々な出会いと別れを繰り返し成長していきます。「人生においてよき出逢いは、三度はある」という言葉もあります。素晴らしい出逢いを大切にしてほしいものです。

二つ目は「一隅を照らす」人になって欲しいということです。一隅とは自分のいるところという意味です。自分がどんな場所、どんな立場にいても必要な光を自分で発する人になって欲しいのです。

人は誰でも何らかの使命を果たすためにこの世に生まれているといいます。あなたが生まれたということは、あなたの命がエネルギーとして輝き、あなたの周りを優しく照らしているのです。どうか、自分自身を大切にして精一杯美しく光を発する生き方をして欲しいと思います。

そうした一人一人の美しい光が、どんどんと数を増やし、世の中を明るく照らすことになります。自分の一度限りの人生をどのように生きていくのかを考えしっかりと輝く人生を送って下さい。一隅を照らす人となって下さい。

平成２２年３月

門出にあたり、はなむけの言葉を送ります。

明倫小学校の「あおいそら」についてお話ししました。本年度、その気持ちを込めて先生達おすすめの詩を集めた「あおいそら」を作りました。私は、相田みつをさんの詩を三編お薦めしました。今日お話しするのは、あおいそらに載せた「しあわせはいつも」ともう一遍「その時の出逢いが」という詩です。

相田みつをさんは、人間本来のありようを書と詩でまとめた「にんげんだもの」「一生感動一生青春」「いのちいっぱい」等を世に出し、知っている人も多いと思います。

相田さんは栃木県の中学校を卒業後地元で働きました。そこで、仕事上のトラブルに巻き込まれたり、ひどい目に遭ったりしました。その結果人間不信に陥ってしまい仕事もやめてしまいました。そして、自宅で四年間療養生活を送ります。その間、人生に大きな影響を持つ二人の人物と出会います。禅寺の住職さんと後に妻となる女性です。

相田さんは、禅寺の住職さんからいろいろな話を聞く中で二七歳の時に一念発起して大学の夜間部へ入学し、自分を磨いていきます。

同じ頃、後に妻になる千江さんと出会います。はじめて千江さんと話をした日、相田さんは名前の「千江」と出逢いの「逢」という字を何度も書いたそうです。その字は、はじめはしっかりとした楷書でしたが、やがて自由で柔らかな字体へと変化していきました。好きな人を思いながら心のままに書くことが楽しみでした。字に命が吹き込まれ、書家へのスタートとなりました。

様々な経験や出逢いを重ねて書家・詩人となった相田みつをさんの詩集の中から二編の詩を取り上げます。

一つ目は「しあわせはいつも」という詩です。

「しあわせはいつも　じぶんのこころがきめる」

どんなに幸せそうに見えても、本人が幸せだと思っていなければ、その人は幸せではありません。同じ出来事に出会った時「もう、だめだ。」と思うのと「まだまだ、よし、やるぞ。」と考えるのでは結果も違ってきます。また、同じ時間でも「もうこれだけしかない。」と思うのか「まだこれだけあるぞ」と思うのでは言動も違ってきます。何事も前向きに捉えることで人生は違ってきます。自分が幸せかどうかを決めるのは、自分の心です。

「しあわせはいつも　じぶんのこころがきめる」

二つ目は、「その時の出逢いが」という詩です。「そのときの出逢いが　人生を根底から　変えることがある　よき出逢いを」

今日皆さんは明倫小学校を卒業し中学校に進学します。一つの別れであるとともに新しい出逢いの時です。人は様々な出会いと別れを繰り返し成長していきます。「人生においてよき出逢いは、三度ある」という言葉もあります。素晴らしい出逢いを大切にしてほしいのです。

「そのときの出逢いが　その人の人生を根底から変えることがある
出逢いが　人間を感動させ
人間を動かすものはむずかしい理論や　理屈じゃない
人間を根底から変えてゆくもの　人間を本当に動かしていくもの
それは人と人との出逢い　そのときの出逢いーー」

平成２１年３月

将来の自分にエールを贈る言葉に添え、皆さんにはなむけの言葉を二つ贈ります。

一つ目は「なぜ勉強するのか？」ということです。皆さんの中にも迷いや悩みが生じ、なぜこんな勉強をしなければならないのかと考えてしまうことがあるかも知れません。なぜ勉強するのかということに対しある本に出会い、「本当にそうだ。」と思ったことがありますので少しお話しします。
「リング」や「らせん」という小説を書いた鈴木光司さんが「なぜ勉強するのか？」という本の中で「勉強で身につけた知識は子どもが成長するに従って血となり肉となる。それは将来全く役に立たないということはないし、知識にどれだけ肉付けできるかはその子の力にかかっている。しかし、勉強の一番大事なことは知識を身につけることではなく、理解力、想像力、表現力という三つの力を蓄えることだ。なぜ勉強するのか？それは、人類の進歩に貢献するためである」と書いています。
皆さんの前には様々な困難が立ちはだかっているかも知れません。しかし、これらの様々な困難に挑戦していく強い心、自分の考えをしっかり持って行動して欲しいのです。そのためにも真剣に勉強し、学びから獲得する力、理解力・想像力・表現力等を身につけることが大切なのです。

二つ目は「一隅を照らす」人になって欲しいということです。一隅とは自分のいるところという意味です。自分がどんな場所、どんな立場にいても必要な光を自分で発する人になって欲しいのです。
人は誰でも何らかの使命を果たすためにこの世に生まれているといいます。あなたが生まれたということは、あなたの命がエネルギーとして輝き、あなたの周りを優しく照らしているのです。どうか、自分自身を大切にして精一杯美しく光を発する生き方をして欲しいと思います。
そうした一人一人の美しい光が、どんどんと数を増やし、世の中を明るく照らすことになります。
校長室の前に、
「いのち　悔いのないように生きたい　一回限りの　かけがえのない命」という書がかかっています。人生は一回しかありません。自分の一度限りの人生をどのように生きていくのかを考えしっかりと輝く人生を送って下さい。一隅を照らす人となって下さい。

平成２０年３月

お別れに当たり、二つ皆さんにはなむけの言葉を送りたいと思います。

一つは、「目標を持ち、常に自分を磨く努力を続けてほしい」ということです。夢の実現に向かって何をするかということです。

現在アメリカのプロ野球大リーガーとして大活躍をしているイチロー選手。数々の素晴らしい記録と感動のプレーで私たちに夢と感動を与えてくれるイチロー選手。彼が、スポーツ記者のインタビューに答えて「言いたいことは唯一つ、それは『目標を持つ』ということ。目標を持つと自分を大切にし、人を敬うことができる可能性が出てくる。結果が出ない時、どういう自分でいられるか、決してあきらめない姿勢が何かを生み出すきっかけをつくる。」と言っています。彼には天性の才能もあったかもしれません。しかし、才能が大きく開いたのは毎日の血の滲むような練習の成果であると思います。

小説『路傍の石』の中に「人間として生まれてきたからには、たった一人しかいない自分を、たった一度しかない人生を、本当に生かさなかったら、生まれてきた甲斐がないじゃないか」という一節があります。夢の実現に向けて自らを磨き、仲間と一緒に磨きあう努力を続けていって下さい。

次に、言葉を大切にしてほしいということです。人という字が支え合ってできているように、これからの人生では人とどう関わっていくかが大切になります。コミュニケーション能力といってもいいかも知れません。そのもとになるのが言葉です。
明倫小学校では、国語科を中心として「伝えあう力」を大切に学習を進めてきました。言葉を大切にすることは、思いやりの気持ちを育てたり、お互いの気持ちを温かくし、活力を生み出すことに繋がります。言葉を大切にして伝え合う力をもっともっとつけていただきたいと思います。

皆さんの教室にも貼ってあった「ひとつのことばで」を送ります。

ひとつのことばで　けんかして　　ひとつのことばで　なかなおり
ひとつのことばで　頭が下がり　　ひとつのことばで　心が痛む
ひとつのことばで　楽しく笑い　　ひとつのことばで　泣かされる
ひとつのことばは　それぞれに　　ひとつの心を持っている
きれいなことばは　きれいな心　　やさしいことばは　やさしい心
ひとつのことばを　大切に　　ひとつのことばを　うつくしく

どうか、未来に大きく羽ばたこうとしている皆さん、この明倫小学校で培われた仲間はもちろんのこと、これから出会う多くの素晴らしい仲間とともに、互いに切磋琢磨し、高い理想や夢に向かって、何事にもやる気を持ってぶつかり、一人一人がしっかり輝いて下さい。

皆さんのご活躍を心より願い、いつまでも見守り続けていきたいと思います。

平成１９年３月

お別れに当たり、皆さんにはなむけの言葉を送りたいと思います。それは、「夢」という言葉です。

これからお話しする夢は、「人生の夢」についてです。先ほど、皆さん一人一人がこれからがんばりたいことや自分のなりたいこと等をしっかりと話しました。また、ＰＴＡ広報「めいりん」をみると、「将来の夢」が書かれています。

人間はこの世に生を受けてから死ぬまでが自分の人生です。人生は一回しかありません。この人生をどのように生きていくかが大切なのです。「人生の夢」というのは、自分の一度限りの人生をどのように生きていくのかの目標といってもいいでしょう。「人生の夢」をしっかりと持てる人が、充実して生きていける人になります。

皆さんは、野口英世という人を知っていますね。英世は、小さい頃に誤っていろりに落ち左手の指にも大やけどをしました。十五歳の時に渡辺先生というお医者さんが不自由だった指を手術してくれました。この時、英世は「自分は医者になって世の中に尽くす」という「人生の夢」を持ちました。英世は自分の夢をかなえるため一生懸命に勉強し医者になりました。そして、病原菌の研究を海外で続け、英世の研究は広く世界に認められ、今でもその功績が知られているのです。このように、「人生の夢」をしっかりと持っていた野口英世は、世界的な医者、そして研究者として充実した人生を送り、人類に貢献しました。

さて、皆さんの将来の夢です。例えば、「プロ野球の選手になる」という夢を持ったとすると「中学校に行ったら野球部に入ろう」「体力をつけるために毎朝、家の周りをランニングしよう」という目標ができます。また、「介護士になろう」という人生の夢を持ったとすれば「中学校に行ったら介護士になるため勉強にがんばろう」「夏休みにはボランティア活動に行ってみよう」という目標もできるでしょう。

「人生の夢」をしっかりと持っている人は強い意志を持って厳しい練習や難しい勉強にも、自分から進んで取り組み、ハードルを一つ一つ乗り越えることができます。

卒業記念文集にも書きましたが、人生の夢はみるものではなく、かなえるものだと思います。無限の可能性を持つ皆さん、どうか「めあてを高くできるまでやる」という気持ちで、夢をかなえてください。そして、たった一人しかいない自分と、たった一度しかない人生を大切に生きてください。

平成１８年３月

門出にあたってはなむけの言葉を三つ送りたいと思います。

一つ目は、「ありがとうの気持ちを忘れないようにしよう」ということです。「感謝に敵なし、反省に卒業なし」という言葉があります。

皆さんが、今日を迎えるまでに、おうちの方はもちろんのこと、多くの方々がいろいろな面で皆さんを見つめ、ほめ、励まし、ご指導下さいました。とかく周りの人がいろいろやって下さることは当然のこととして受け取りがちです。しかし、皆さんの気づかないところで、いろいろと気を遣い、ご苦労のあったことを忘れてはなりません。この「ありがとう」ということを素直に態度に表すことが大切なのです。

二つ目は、「思いやりの心をもとう」ということです。人間は一人では、生きてはいけません。

人は、人との関わりの中で成長していきます。人という字は人に支えられ、また他人を支えることを意味しています。ですから、いつも相手の人の立場になって考えてほしいのです。

自分勝手やわがままは、いけません。自分にとって何気ない言葉でも、相手を傷つけてしまうこともあります。きれいな言葉は、きれいな心。やさしい言葉は、やさしい心。一つの言葉を大切に。一つの言葉を美しく。

言葉一つかけるにも、そこには人間としての思いやりが必要なのです。

三つ目は、「いい訳をしないようにしよう」ということです。例えば、運動選手が、自分の記録がよくなかったことを「走るコースが不利だった」とか「気温が低かった」とかいい訳をしていたら‥‥。その選手は、残念ながら、それ以上は伸びません。

思い通りの記録が出なかった原因を考え、辛いことや苦しいことがあったとしても、そのことを一つ一つ改善していくことが記録の伸びにつながるのです。

同じように、学習や活動の成果が上がらなかったことを自分を取り巻く環境や親や友達のせいにするのは間違いです。

本当に勇気のある人とは、自分に与えられた条件の中で、最善の努力をする人です。自分の人生は、自分の責任で切り開いていかなければなりません。

今、「ありがとうの気持ちを忘れないようにしよう」「思いやりの心をもとう」「いい訳をしないようにしよう」という話をしました。

明倫小学校の校歌の歌い出しを思い出して下さい。「青い空　青い空」で始まりますね。今お話しした三つの話の頭の文字をつなげると、「あおい」となります。この、「あおい」を大切にして、明倫小学校のスクールカラーであるサックスブルーの澄み切った「青い空」のように、これからの人生に夢と希望を持って大きく羽ばたかれることを期待しています。

平成１７年３月